

建設現場のICT活用に関する北海道の取組方針 (説明版)

		情報化施工の取組状況								
		H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	
情報化施工	TSによる出来形管理 (10,000m ³ 以上の土量を含む工事)									
	① ICT建設機械による施工 (MC・MG技術)									
	② 全面的なICT活用工事 (測量・設計データ・施工・施工管理・データ納品でICT活用)									
	③ 部分的なICT活用工事 (設計データ・施工でICT活用)									
	④ 簡易的なICT活用工事 (設計データ・施工管理・データ納品でICT活用)									

現 状

- 道内建設技能者等の高齢化、若年入職者の減少
- 道内建設業の厳しい経営環境
- ICT活用への期待

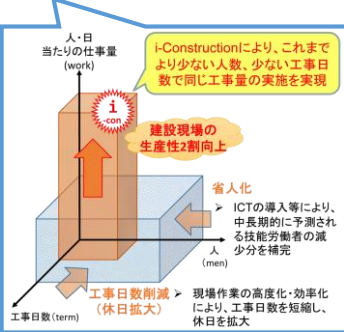
国の動き H28～

i-Construction ～建設現場の生産性革命～

- ① ICTの全面的な活用 (ICT土工)
- ② 全体最適の導入 (コンクリート工の規格標準化等)
- ③ 施工時期の平準化

建設現場の生産性向上、安全性向上のため、取組の加速が必要

見直しの視点 国の「i-Construction」の動向を踏まえ、ICT活用工事取組拡大のため、対象工種等の拡大



新・取組方針 (工程表)

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6以降	
■ 情報化施工の推進	◆ TS出来形管理		使用原則化 (1万m ³ 以上) 施工者の実施規模を踏まえ土工規模基準の拡大を検討						◆ 一般化
	◆ 施工者希望型 (1万m ³ 以上)		施工者希望型 (1万m ³ 未満)						◆ 使用原則化
※TS・GNSSによる締固管理技術、MC/MG建機による施工技術は、全面的なICT活用工事 (土工) の試行の中での採用状況等を踏まえ、使用原則化を目指す									
「全面的なICT活用工事」とは 施工プロセスの全ての段階においてICT施工技術を全面的に活用する工事	■ ICTの全面的な活用に向けた取組推進								
	全面的なICT活用工事								
	部分的なICT活用工事								
	簡易的なICT活用工事								
	施工者希望型								
土工 (1万m ³ 以上) → (1千m ³ 以上)									
舗装工 路盤工 (3千m ² 以上) 修繕工 (3千m ² 以上) → (1万m ² 以上) → 舗装工 (3千m ² 以上)									
構造物 (橋脚・橋台)									
※ 1 従来の測量方法も可 ※ 2 部分的なICT活用工事は必須項目 ※ 3 簡易的なICT活用工事は必須項目									